

■ 概況

7/30~8/5のNYMEX・WTI先物市場は、39.92~42.19ドルの範囲で推移した。

8月6日は、前日の5か月ぶり高値で利益確定売りが出やすく、新型コロナ感染再拡大の懸念もあり、5営業日ぶりに反落した。9月限終値は前日比0.24ドル安の41.95ドル。

週末7日は、感染再拡大の懸念、米政権と議会の追加経済対策の協議難航、ドル高進行に伴う原油先物の割高感等から続落した。米国稼働石油掘削機は176基と前週比4基減少した。9月限の終値は前日比0.73ドル安の41.22ドル。

週明け8月10日は、米大統領令による追加経済政策の発表、サウジアラムコCEOの需要回復見通しの発言等を好感し反発した。9月限終値は前週末比0.72ドル高の41.94ドル。

11日は、前日の流れを受け買い優勢で始まったが、為替相場のドル高進行に伴う原油先物の割高感から売り戻され、反落した。9月限終値は前日比0.33ドル安の41.61ドル。

12日は、この日発表の米国エネルギー情報局(EIA)の週報で、週末の原油在庫が市場予想を上回る減少となり、反発した。9月限の終値は前日比1.06ドル高の42.67ドル。

13日は、IEA月報が、前日のOPEC月報に続き、2020年の世界石油需要見通しを下方修正したことから、反落した。9月限終値は前日比0.43ドル安の42.24ドル。

週末14日は、前日に続き、需要回復の遅れに対する懸念から、続落した。米国稼働石油掘削機は172基と前週比4基減少した。9月限の終値は前日比0.23ドル安の42.01ドル。

週明け8月17日は、OPECプラスの順調な減産、米国によるベネズエラ向けイランタンカー4隻の拿捕の報道で、反発した。9月限終値は前週末比0.88ドル高の42.89ドル。

18日は、売りが先行したが、米国原油在庫の取り崩し観測、OPECプラスの減産順守率95~96%の報道で持ち直し、横ばいで終わった。9月限終値は前日比横ばいの42.89ドル。

19日は、米国エネルギー情報局(EIA)の週報で、先週末の在庫が原油・ガソリンとも前週比減少し、わずかに値上がりした。9月限の終値は前日比0.04ドル高の42.93ドル。

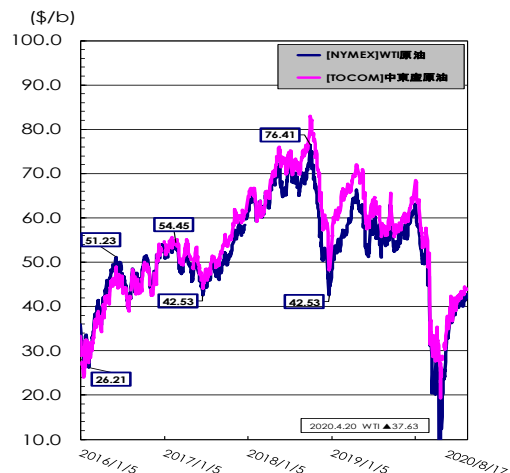
アジアの指標原油である中東産バイ原油/東京市場(9月渡し)は7月30日~8月5日の間42.50~43.60ドルの範囲で推移した。8月6日44.30ドル、7日43.90ドル、11日44.00ドル、12日43.80ドル、13日43.80ドル、14日43.70ドル、17日43.60ドル、18日44.00、19日44.10ドルと推移した。

為替は7月30日~8月5日の間104.60~106.13円の範囲で推移した。8月6日105.51円、7日105.59円、11日106.17円、12日106.57円、13日106.71円、14日106.98円、17日105.82円、18日105.19円、19日105.19円で推移した。

財務省が8月7日に発表した貿易統計(速報・旬間)によると、7月中旬の原油輸入平均CIF価格は、21,814円/klで、前旬比1,578円高、ドル建て32.28ドルで前旬比2.22ドル高、為替レートは1ドル/107.43円。

そのような中で、8月11日時点の小売価格は、ガソリンが前週比1.1円の値上がり、軽油は同1.0円の値上がり、灯油も同12円(18%ベース)の値上がりだった。ガソリンは13週連続の値上がり、軽油は2週連続の値上がり、灯油も2週連続の値上がりであった。この週(8月第1週)の原油コストは値上がりし、次週の元売の卸価格はガソリン・軽油・灯油ともに前週比0.5~1.0円引き上げた。また、8月17日時点の小売価格は、ガソリンが前週比0.1円の値下がり、軽油は同0.1円の値下がり、灯油は横ばいだった。ガソリンは14週ぶりの値上がり、軽油は14週ぶりの値上がり、灯油は3週ぶりに値上がり止まった。この週(8月第2週)の原油コストはわずかに値上がりし、次週の元売の卸価格はガソリン・軽油・灯油ともに前週比据え置きと0.5円の引き上げに分かれた。

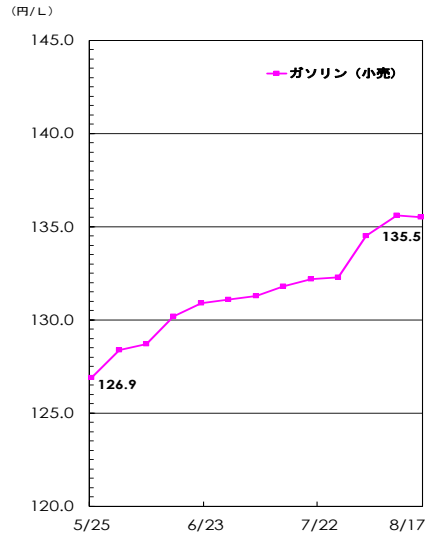
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	8/9 ~ 8/15	2,813 ▲292	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	71.8 ▲7.4	▼ -
	原油在庫量 (千kl)	8/15	13,010 ▼336	▲ -
価格	中東産原油 (TOCOM) (\$/bbl)	8/17	43.84 ▼0.37	▼ -13.5
	WTI原油 (NYMEX) (\$/bbl)	8/17	42.89 ▲0.95	▼ -13.3
	原油CIF単価 (\$/bbl)	7月中旬	32.28 ▲2.22	▼ -35.04
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	21,814 ▲1,578	▼ -23,917
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	107.43 ▼0.41	▲ 0.56
	外国為替TTSレート (¥/\$)	8/17	107.55 ▼0.38	▼ -0.14



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	8/9 ~ 8/15	939 ▲127	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	870 ▲163	▼ -	
	輸出	"	25 ▲9	▲ -	
	在庫	8/15	1,793 ▲43	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	8/11 ~ 8/17	43.8 ▲0.2	▼ -11.6	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	8/11 ~ 8/17	40.6 ▼-0.3	▼ -12.4
		(TOCOM/中部)	8/17	41.8 ▼-0.4	▼ -12.0
	小売 [週動向] (資工庁公表)	8/17	135.5 ▼-0.1	▼ -8.9	

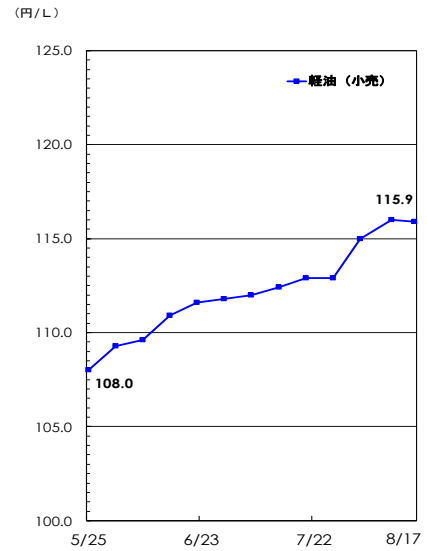
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

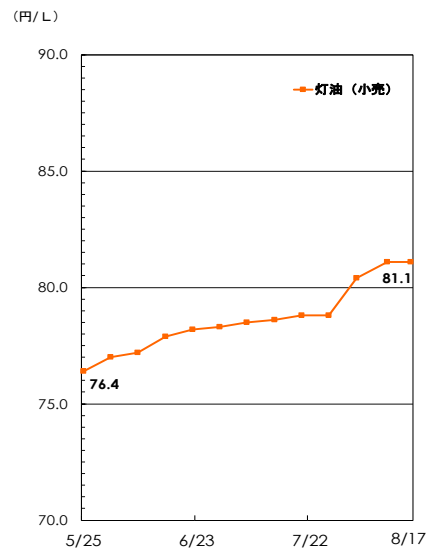
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	8/9 ~ 8/15	571 ▼-24	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	350 ▼-205	▲ -	
	輸出	"	4 ▼-39	▼ -	
	在庫	8/15	1,835 ▲217	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	8/11 ~ 8/17	46.7 ▲0.2	▼ -11.8	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	8/11 ~ 8/17	48.4 ▲0.5	▼ -13.2
		(TOCOM/中部)	8/17	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	8/17	115.9 ▼-0.1	▼ -9.7	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	8/9 ~ 8/15	188 ▼-26	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	30 ▼-21	▲ -	
	輸出	"	0 ➡0	➡ -	
	在庫	8/15	2,198 ▲158	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	8/11 ~ 8/17	46.8 ▲0.1	▼ -10.4	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	8/11 ~ 8/17	43.5 ▲0.6	▼ -11.2
		(TOCOM/中部)	8/17	44.9 ▼-0.1	▼ -11.6
	小売 [週動向] (資工庁公表)	8/17	81.1 ➡0.0	▼ -9.6	



■ 関連情報

1 海外/原油

8月19日のNYMEXのWTI先物原油は、OPECプラスが閣僚監視委員会(JMMC)を開催中で、様子見ムードが強い中、この日発表の米国エネルギー情報局(EIA)の週報で、先週末の原油在庫が前週末比160万バレル減少と市場予想(270万バレル減)を下回ったものの4週連続の取り崩し、ガソリン在庫も330万バレル取り崩しとなったことから、わずかに値上がりした。9月限の終値は前日比0.04ドル高の42.93ドル、10月限の終値は同0.01ドル高の43.11ドル。

EIAによると、8月10日時点のガソリンの小売価格は、前週比1.0セント値下がりの1ガロン2.166ドル(60.9円/ℓ)、

ディーゼルは同0.4セント値上がりの2.428ドル(68.3円/ℓ)となった。ガソリンは2週ぶりの値下がり、ディーゼルは4週ぶりの値上がりだった。また、8月17日時点のガソリンの小売価格は、前週比横ばいの1ガロン2.166ドル(61.5円/ℓ)、ディーゼルは同0.1セント値下がりの2.427ドル(68.9円/ℓ)となった。ガソリンは前週と同一の価格、ディーゼルは2週ぶりの値下がりだった。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2020年8月9日～8月15日に休止したトッパー能力は43.5万バレル/日で、前週に対して50.9万バレル/日減少した(全処理能力は351.9万バレル/日)。

原油処理量は281.3万klと、前週に比べ29.2万kl増加。前年に対しては70.9万klの減少。トッパー稼働率は71.8%と前週に対して7.4ポイントの増加、前年に対しては18.1ポイントの減少となった。

生産は前週に比べてガソリン、ジェットが増産となり、その他の油種で減産となった。ガソリン/15.6%増、ジェット/53.3%増、灯油/12.2%減、軽油/4.1%減、A重油/5.3%減、C重油/8.5%減。今週のC重油の輸入は0.0万kl(前週比0.0万kl減)。軽油の輸出は0.4万kl(前週比3.9万kl減)。

出荷(輸入分を除く)は前週比でガソリン、ジェットが増加となり、その他の油種で減少となった。前年比では灯油、軽油、A重油が増加となり、その他の油種で減少となった。ガソリンの出荷は87.0万kl(対前週23.0%増)と3週振りが増加となり、52週連続で100万klを下回った。ジェット7.8万kl(対前週82.7%増)、灯油3.0万kl(対前週39.9%減)、軽油35.0

万kl(対前週36.9%減)、A重油12.8万kl(対前週23.4%減)、C重油9.8万kl(対前週18.0%減)。

(単位:千kl)

	今週 (8/9 ~ 8/15)	前週 (8/2 ~ 8/8)	前週比	
ガソリン	870	707	▲ 163	(23%)
ジェット燃料	78	43	▲ 35	(81%)
灯油	30	51	▼ -21	(-41%)
軽油	350	555	▼ -205	(-37%)
A重油	128	167	▼ -39	(-23%)
C重油	98	119	▼ -21	(-18%)
合計	1,554	1,642	▼ -88	(-5%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

8月15日時点の在庫は、ジェットで取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。前年に対してはガソリン、軽油、A重油が増加となり、その他の油種で減少となった。

ガソリンは179.3万kl、前週差4.3万kl増。前年に対しては37.6万kl多い。

灯油は219.8万kl、前週差15.8万kl増。前年に対しては1.5万kl少ない。

軽油は183.5万kl、前週差21.7万kl増。前年に対しては4.6万kl多い。

A重油は72.8万kl、前週差3.9万kl増。前年に対しては1.1万kl多い。

C重油は183.9万kl、前週差3.9万kl増。前年に対しては13.6万kl少ない。

(単位:千kl)

	今週 (8/15)	前週 (8/8)	前週比	
ガソリン	1,793	1,750	▲ 43	(2%)
ジェット燃料	738	740	▼ -2	(-0%)
灯油	2,198	2,040	▲ 158	(8%)
軽油	1,835	1,618	▲ 217	(13%)
A重油	728	689	▲ 39	(6%)
C重油	1,839	1,800	▲ 39	(2%)
合計	9,131	8,637	▲ 494	(5.7%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

8月4日～10日の原油価格は前週比で値上がりし、為替レートはやや円安で、円建ての原油コストは値上がりであったと見られる。これを受けて、次週の大手元売卸価格は、ガソリン・灯油・軽油ともに、前週比0.5～1.0円引き上げた。

8月11日～14日の原油価格は前週比でほぼ横ばいで

あったが、為替レートは円安で、円建ての原油コストはわずかに値上がりであったと見られる。これを受けて、次週の大手元売卸価格は、ガソリン・灯油・軽油ともに、前週比据え置きと0.5円の引き上げに分かれた。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

8月4日～10日の製品スポット市況は、7月28日～8月3日平均と比べ、3油種の海上とガソリン先物の値下がり、灯油先物の横ばいを除いて、他の取引・油種で値上がりだった。8月11日～17日の製品スポット市況は、8月4日～10日平均と比べ、ガソリン先物、灯油海上、軽油海上の値下がり、ガソリン海上の横ばいを除いて、他の取引・油種で値上がりだった。

直近(8/11～8/17)の陸上スポット価格平均値(千葉・川崎・中京・阪神の4地区の陸上ラック価格)は、前々週(7/28～8/3)比で、ガソリンは0.9円の値上がり、灯油は0.8円の値上がり、軽油は1.1円の値上がりだった。直近(8/4～8/17)において、ガソリンは97円台で値下がり後ほぼ値を戻し、灯油は46～47円台で値下がり後わずかに値上がり、軽油は46円台で値下がり後値を戻して推移した。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、直近(8/11～8/17)に、前々週比で、ガソリンは0.4円の値下がり、灯油は0.4円の値下がり、軽油は2.0円の値下がりだった。海上スポット価格は、同期間(8/4～8/17)に、ガソリンは98～99円台で値下がり後わずかに値上がり、灯油は41～42円台で値下がり、軽油は48円台で値下がり後横ばいで推移した。

先物価格の平均は、前々週比で、ガソリンは0.4円の値下

がり、灯油は0.6円の値上がり、軽油は1.2円の値上がりだった。先物価格は、同期間(8/4～8/17)に、ガソリン94円台で出入り後値下がり、灯油42～43円台で値上がり後わずかに値下がり、軽油47～48円台で出入り後値上がりで推移した。

(RIM)		(単位: 円/ℓ)		
[陸上ローリー 4地区平均]		今週 (8/11～8/17)	前週 (8/4～8/10)	前週比
ス ポ ッ ト 価 格	レギュラー	43.8	43.6	▲ 0.2
	灯油	46.8	46.7	▲ 0.1
	軽油	46.7	46.5	▲ 0.2
(TOCOM)		(単位: 円/ℓ)		
[期近物/終値] [平均]		今週 (8/11～8/17)	前週 (8/4～8/10)	前週比
先 物 価 格	レギュラー	40.6	40.9	▼ -0.3
	灯油	43.5	42.9	▲ 0.6
	軽油	48.4	47.9	▲ 0.5

※上記価格は税抜き価格

参考値 (8/11～8/17実績値) (単位: 円/ℓ)			
油種	現物	先物	平均
ガソリン	▲ 0.2	▼ -0.3	▼ -0.1
灯油	▲ 0.1	▲ 0.6	▲ 0.4
軽油	▲ 0.2	▲ 0.5	▲ 0.4
A重油	▲ 0.2		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バーージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

8月11日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週(8月3日)比1.1円高の135.6円、軽油は同1.0円高の116.0円、灯油は18ℓベースで同12円高の1,459円(1ℓベースでは同0.7円高の81.1円)。ガソリンは13週連続の値上がり、軽油は2週連続の値上がり、灯油も2週連続の値上がりとなった。ガソリンについて、都道府県別には、値上がりは41都道府県、横ばいは2県、値下がり4県となった。全国最安値は徳島県の128.2円(同1.7円高)、その次に安いのが岡山県の129.4円(同1.0円高)、最高値は長崎県の144.8円(同1.9円高)。最も値上がりしたのは同2.9円高の香川県(131.1円)、横ばいは長野県・群馬県、最も値下がりしたのは同1.0円安の滋賀県(132.3円)だった。先週(7月28日～8月3日)の指標原油の円建てコストは値下がり、今週(8月6～12日)適用の大手元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油とも、全社1.0円の値下げとなった。今週(8月4～10日)は、原油価格は値上がりし、為替レートはやや円安で、円建ての原油コストは値上がりしたと見られる。次週(8月13～19日)適用の元売の卸価格はガソリン・軽油・灯油とも、0.5～1.0円の引き上げとなった。

また、8月17日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週(8月11日)比0.1円安の135.5円、軽油も同0.10円安の115.9円、灯油は18ℓベースで横ばいの1,459円(1ℓベースでは同横ばいの81.1円)。ガソリンは14週ぶりの値下がり、軽油も14週ぶりの値下がり、灯油は3週ぶりに値上がり止まった。ガソリンについて、都道府県別には、値上がりは20府県、横ばいは5県、値下がり22都道府県となった。全国最安値は徳島県の128.4円(同0.2円高)、その次に安いのが宮城県の129.6円(同0.3円安)、最高値は長崎県の144.7円(同0.1円安)。最も値上がりしたのは、同1.3円高の鹿児島県(143.4円)、横ばいは大分県など5県、最も値下がりしたのは、同1.8円安の北海道(132.3円)だった。今週(8月11～17日)は、原油価格はほぼ横ばいで、為替レートは円安で、円建ての原油コストはわずかに値上がりしたと見られる。次週(8月20～26日)適用の元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、据え置きと0.5円の引き上げに分かれた。次回調査時(8月24日)のガソリンの小売価格は、小幅な値上がり予想される。

(資工庁公表)		(単位: 円/ℓ)			
[週動向]		今週 (8/17)	前週 (8/11)	前週比	直近高値
小 売 価 格	レギュラー	135.5	135.6	▼ -0.1	08/8/4 185.1
	灯油	81.1	81.1	▶ 0.0	08/8/11 132.1
	軽油	115.9	116.0	▼ -0.1	08/8/4 167.4

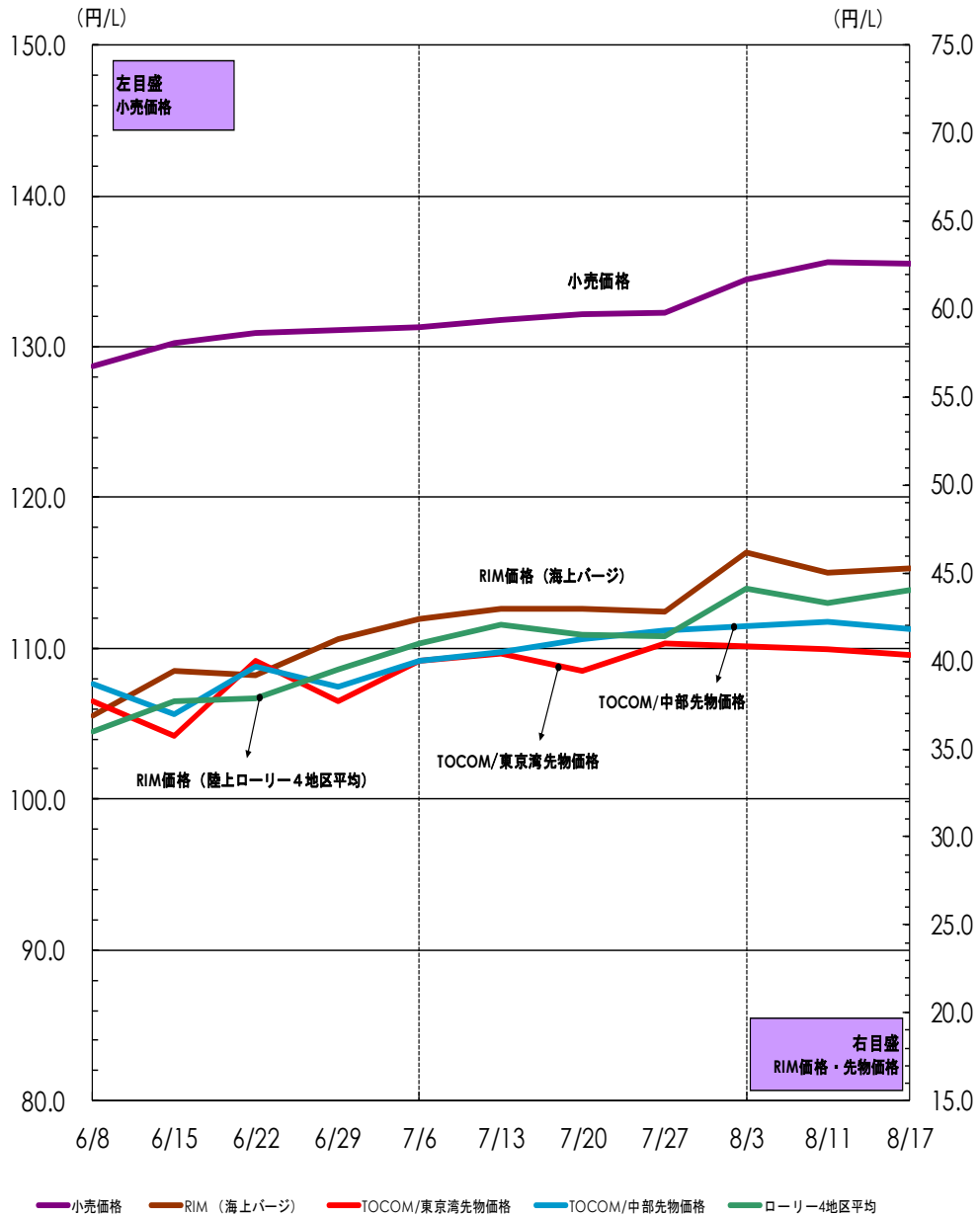
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2020/6/8 ~ 2020/8/17)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2020第9号)の公表は、8/28(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(令和元年9月末現在)は、12月25日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate : 中値)を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用(いわゆる4RIM価格とは異なる)。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁HPに掲載)。